

お米と、お母さんのダイエット

河崎小学校 二年 本間 あれん

ぼくのお母さんはダイエットをしている。ここニか月位、お米を食べていないらしい。毎日「アー、お米が食べたい。」「たきたてのホカホカごはんを見るのがつらい。」といつも言っている。だけど、「やせるまでがマン」と紙に書いて台所には「てある。」（今回は本気だ。）ぼくの友だちが家にあそびに来た時、その紙を見て「何これ？」と笑っていた。

一方、ぼくはお米をおいしく食べている。な、とうをかけて食べるのが好き。ワカメごはんも。おみそ汁をかけてサラサラ食べたりそのままでもパクパク食べる。食べるスピードはおそいけれど、かんしゃの気もちで、きれいに食べることはがんばっているのだ。ところが、テレビでおすし屋さんに来たお客さんが上のおさしみだけ食べて下のお米をのこしているのを見た。ダイエットだからだ。そうだ。ハンバーグのお店でも、お米を半分

位のこして帰る人がいて「はじめから『お米は少なめで』と言ってくれたら」と困っていた。さすがにそれはダメだと思う。田んぼでお米を作った人もガツカリだろう。おなかがいいたいならまだしかたないけれど、そうじやないなら、のこして帰ってしまうのはもったいない。五十年に一度の大雨がふっても負けないでお米を作ってくれている人にかんしては、食べてほしい。

ぼくのお母さんはダイエット中だけど、そんなもったいないことはない。おすし屋さんへ行っても「お母さんはいいから、みんなお母さんの分までたくさん食べてね」とおみそ汁をのみながらニコニコしてまっている。お米をおだにするようなことはない。

大好きなお米をガマンしているお母さんは、そうとうフらいだろうな。だからがんばって早く目ひょう体じょうまでやせて、また早くお米を食べられるようになるといいな、とぼくは思う。できれば新米のきせつまでに。